

# 板スポ新聞

板倉スポーツ少年団野球クラブ発行

## 新人戦第20回光陽旗初優勝 板倉スポーツ少年団野球クラブ



優勝旗を手に記念撮影する板倉スポーツ少年団野球クラブのメンバー

### 選手一丸で激闘制す

先発小川二回無失点

主砲岩崎利ソ口弾

▽決勝戦

清里	004000
板倉	2450X
	114

(清) ●堀川、井浦、井浦、堀川  
(板) 小川、竹之内、○上野、岩崎利  
▽本塁打 岩崎利(板) △三塁打 竹之内、中村(板)  
▽二塁打 池田(清)

10月13日上越市少年野球場において、高田ジュニアリーグの今季最終戦である第20回光陽旗争奪新人戦幼年野球大会の決勝戦が行われ、板倉スポーツ少年団野球クラブと清里ジュニアが対戦し、11-4で板倉が勝利した。板倉の同大会優勝は初。

### 選手を支える指導者たち

キッズボーラー達を指導する面々。その筆頭は技術はもちろん精神面でもチームを支える鴨井監督だ。創設時からチームに20年以上もたずさわり子供たちを見てきている。時には厳しく、時には優しく、子供たちもそんな鴨井監督を慕った。ついでに、鴨井監督は優勝したことに「六年不在で一シーズンやれたのは大きいと思う。狙うというか、秋にはもちろん勝負にはなると思っています。選手も期待に応えてほしい。え、頑張ってください。何よりコーチたちや保護者会長をはじめ保護者の方々の協力・支えが大きかったと思う。特にお母さん方には日

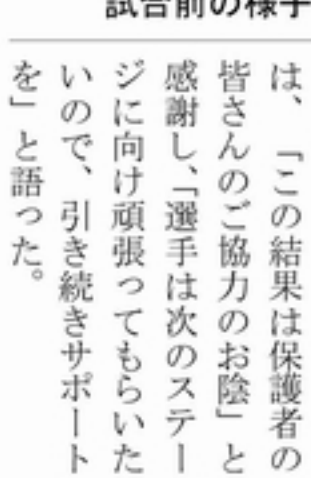
## 六年生七回の苦闘実る

### 春に仲間と光陽旗優勝を誓う

今期の板スポは六年生が不在。そのためシーズンを通して五年生以下で戦わざるを得なかった。しかし相手は六年生が中心で構成されたチームがほとんど。技術だけでなく体力差も歴然とした差があった。シーズンが開幕してもなかなか勝てず各大会も序盤での敗退が続いた。そんな中チームのモチベーションを維持し

たのは高橋コーチの「光陽旗で勝つ!」だった。「負けるとわかっていても強い相手と一シーズン戦えるのは逆に考えれば凄く大事な経験。秋には必ずこの経験

が生まれてくる(高橋コーチ)。鴨井監督・中村コーチ、さらに保護者も同じ意見だった。子供たちもその言葉に引張られる形でいつしかチームの合言葉に。「光陽旗で勝つ!」まさにチームのキャッチコピー「いつでも全力で全員野球!最後まであきらめず勝つ!」が結実した瞬間だった。



試合前の様子

ソロ本塁打などで先制。その後も竹之内と中村が満塁から走者一掃(そうしやいつそう)となる3点三塁打を打つなど着実に(ちやくじつ)に得点した。この大会では4日に行われた高北アローズとの1回戦を17-0で勝利したのを皮切りに、ひがしSライナースに17-0、上雲時幼年野球に10-0、決勝同日行われた準決勝の高志ビクトリーズ戦も4-1と勝ちあがっていた。

### 晴れやかに表彰式

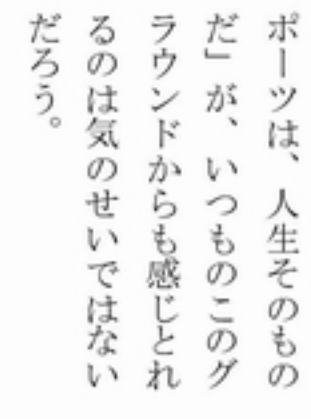
チームで全てが初めてづくしの表彰式。名前が呼ばれるのも最初、その後の進行も先頭。そもそも決勝戦で試合中に選手名がアナウンスされるのも初めてだった。そんな優勝について主将で自らも打撃賞に輝いた岩崎利夢捕手は「ストライクをしっかりと打つことができた。チームが勝ててとても嬉しい」と終始笑顔だった。



感激の優勝旗授与

## 選手募集しています

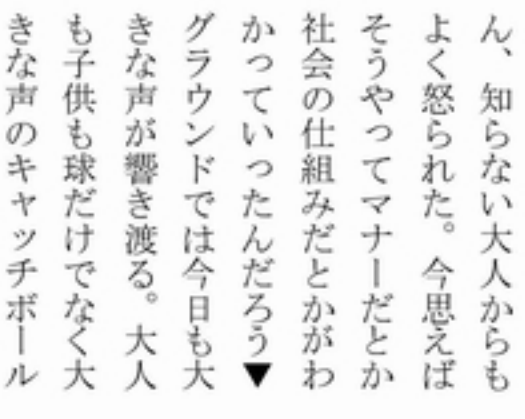
板倉スポーツ少年団野球クラブは土・日・祝・火曜夜に宮嶋小グラウンドや板倉トレーニングセンターなどで練習しています。興味がある方はまずはお気軽に練習を見に来て下さい。体験入団OK! 動ける格好ならとりあえず用具は不要です。みんなで楽しく野球やりましょう!  
チームの公式ホームページに簡単なQ&A



http://itasupo.ken-shin.net

## メンバー紹介

▽監督 鴨井晃▽コーチ 高橋大輔、中村剛▽五年(豊原) 主将・荻原優太、畔地伊織、岩崎聖矢、岩崎利夢、高橋陽向、竹之内陵、中村歩磨、古澤陽来、(針)上



一緒に野球やろう!

## 元アルビ選手も応援

チームに指導に来てくれたことが縁(えん)で、元広島カープ選手でアルビBCでも選手・コーチとして活躍した青木智史さんと、同じく元アルビBCのキャ



清野さん(左)と青木さん(右)

野飛鳥、小川魁大▽四年(豊原) 蟻坂夢叶、浦野裕太、松縄育、松縄拓、(山部) 市村聡拓、古海拓真、宮越一輝▽三年(豊原) 栗和田孝介▽二年(豊原) 蟻坂育夢、田中淳希▽一年(山部) 古海悠真

### 一振不乱

子供に野球をやらせてくても板スポの門を叩いて早3シーズン目が終わろうとしている。自分のいる場所もグラウンド外から外野の球拾い、そして今ではどっぶりグラウンド内で子どもと一緒に汗を流している。自分の子

だ。が、いつものこのグラウンドからも感じとれるのは気のせいではないだろう。